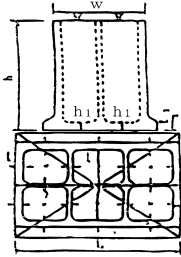
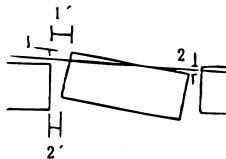


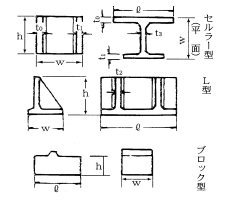
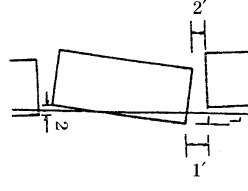

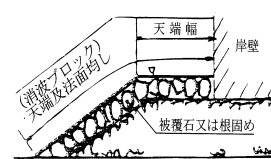
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4	3	3	2		浚渫	測深	計画水深の場合 水深及び法面 + 0 - 規定しない 暫定水深の場合 水面及び法面 +それぞれの 余堀厚の数値 - 規定しない	設計図書の測点ごとに測定する		(1) 海底が岩塊(転石)、灰岩(栗石を含む)砂利の場合は岩盤と同一とする。 (2) 音響測深機、レッド又はレベル等により測定。 +: 設計値より浅い(高い)ことを言う。 -: 設計値より深い(低い)ことを言う。
4	3	3	6	1	サンドドレーン	天端高	+ 規定しない - 0	全数		+: 設計値より浅い(高い)ことを言う。 -: 設計値より深い(低い)ことを言う。 ()は陸上。
			2	サンドコンパクション	先端深度	+ 0 - 規定しない				
			5	ペーパードレーン	天端幅	+ 規定しない - 0				
4	3	3	6	2	敷砂	延長	+ 規定しない - 0	施工完了後		管理図に天端高、法屑、法尻、天端幅および法面勾配を記入し、提出。
			3	天端高		(陸上部) ± 300	測線間隔20m以下			
				天端幅		+ 規定しない - 0	測点間隔10m以下			
4	3	3	6	4	載荷 載荷 (プレローディング)	延長	+ 規定しない - 0	施工完了後		管理図に測定結果を記入し提出。自動位置決め装置を使用している場合、その作動状況が確認されていれば管理不要。
				天端高		(陸上部) ± 500	測線間隔20m以下			
				天端幅		+ 規定しない - 0	測点間隔10m以下			
4	3	3	8	1	深層混合処理杭	位置	トランシット及び光波測距儀により測定する場合は(特)による。	改良杭全数。		管理図に測定結果を記入し提出。自動位置決め装置を使用している場合、その作動状況が確認されていれば管理不要。
				鉛直度接合			改良杭全数 深度方向2m~5m程度毎に測定。 (引き抜きと貫入時)	改良杭先端部の軌跡図を作成し提出。 陸上施工は除く。		
				天端高		+ 規定しない - 0	改良杭全数	打込記録紙または打込記録データに天端高、先端深度を記入し、管理表を提出。		
				先端深度		+ 0 - 規定しない		+ : 設計値より浅い(高い)ことを言う。 - : 設計値より深い(低い)ことを言う。 ()は陸上。		
				固化材吐出量			改良杭全数	打込記録紙または打込記録データに固化材吐出量を記入。		
				盛上り量			改良前、改良後	盛上り量の図面を作成し提出。		

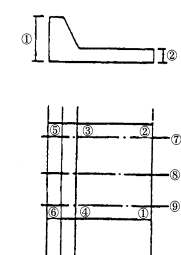
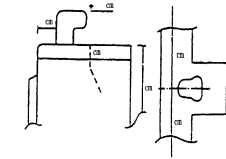
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
4	3	3	9		吸出し防止材	敷設位置		始、終端及び変化する箇所毎、並びに20mに1箇所以上		測定表及び敷設図を作成し提出				
						重ね幅	アスファルトマット 繊維系マット 500以上 合成樹脂系マット 300以上	1枚に2点						
						延長	+ : 規定しない - : 100	マットの中心を区間毎及び全長						
4	3	3	10		中詰工	天端高 (砂、石材)	± 50 (陸上) ± 100 (水中)	1室につき1箇所 (中心)		管理表を作成し提出。				
						天端高 (コンクリート、プレバックドコンクリート)	± 30 (陸上) ± 50 (水中)			管理表を作成し提出。				
			11		蓋コンクリート	天端高	± 30 (陸上) ± 50 (水中)	1室につき1箇所 (中心)		管理表を作成し提出。				
			13		鋼矢板	矢板壁延長	+ 矢板1枚幅 - 0	施工中適宜。打込み完了時		管理表を作成し提出。				
						矢板法線に対する出入	± 100				打込完了時20枚に1枚及び計画法線の変化点			
						矢板法線に対する傾斜	10/1000以下				打込完了時20枚に1枚及び計画法線の変化点			
						矢板法線方向の傾斜 (両端部)	上下の差が矢板1枚幅未満10/1000以下				施工中適宜。打込み完了時(両端部)			
						矢板天端高	± 100				打込完了時20枚に1枚			
						矢板継手部の離脱					全数	観察結果を報告		
			4	3	3	13		鋼管矢板	矢板壁延長	+ 規定しない - 0	施工中適宜。打込み完了時		管理表を作成し提出。	
									矢板法線に対する出入	± 100				打込完了時10本に1本及び計画法線の変化点
									矢板法線に対する傾斜	10/1000以下				打込完了時、全数確認後、10本に1本及び変化点
									矢板法線方向の傾斜 (両端部)	上下の差が矢板1枚幅未満10/1000以下				施工中適宜。打込み完了時(両端部)
矢板天端高	± 100	打込完了時10本に1本												
矢板継手部の離脱		全数							観察結果を報告					
4	3	3	14	4	腹起	取付高さ		取付完了時 両端 (継手毎) 全数		管理表を作成し提出				
						継手位置		取付完了時、全数		観察結果を報告				
						ボルトの取付		取付完了時、全数						
						矢板と腹起しとの密着度		タイロッド毎、全数						

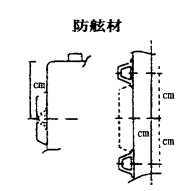
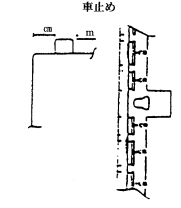
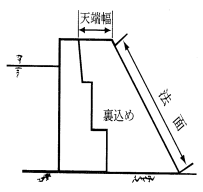
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4	3	3	14	5	タイ材 (タイロッド取付け)	取付高及び水平度		締付後両端、全数		管理表を作成し提出 腹起しに取付ける場合は不要
						矢板法線に対する取付 角度及び取付間隔		締付後両端、全数		管理表を作成し提出
						定着ナットの締付	ねじ山が3つ山以上突 き出していること。	全数		観察結果を報告
						ターンバックルのねじ 込み長さ	定着ナットの高さ以上	全数		
						リングジョイントのコン クリートへの埋込み		全数		
						支保材の天端高さ		適宜		管理表を作成し提出
4	3	3	14	5	タイ材 (タイワイヤー取付け)	取付高さ		締付後両端、全数		管理表を作成し提出。 腹起しに取付ける場合は不要。
						矢板法線に対する取付 角度および取付間隔		締付後両端、全数		管理表を作成し提出
						定着ナットの締付	ねじ山が3つ山以上突 き出していること	全数		観察結果を報告
						定着具端部栓の取付		全数		
						トランペットシースの 取付		全数		
3	3	3	15 16	杭打工 (棧橋ドルフィンの脚 柱) (鋼杭H形鋼) (コンクリート杭)	打込記録		支持杭は全数 その他は20本に1本		打込工法記録を提出	
					杭天端高	± 50	打込完了時、全数		管理表を作成し提出	
					杭頭中心位置	100 以下				
					杭の傾斜	直杭2°以下 斜杭3°以下				
3	3	3	17	(防食) 電気防食	取付位置		取付完了後、全数		確認結果を報告	
					電位測定	飽和かんこう電極 基準-770mV 海水塩化銀電極 基準-780mV 又は飽和硫酸銅電極 基準-850mV	取付完了後、測定端子取付箇所毎		測定表を作成し提出	
					(被覆防食) FRPモルタル	取付高さ (被覆範囲)	鋼管杭：全数 矢板：1打設 3箇所以上 完了後、保護カバーの上端又は下端高さ (被覆範囲の確認)		測定表を作成し提出。 測定密度における矢板の1打設と は、コンクリートモルタルの配合 1回当たりの打設を示す。	
					(被覆防食) ベトセラタム		鋼管杭：全数 矢板：監督職員の指示による。 完了後、保護カバーの上端又は下端高さ (被覆範囲の確認)		測定表を作成し提出。	
					(被覆防食) コンクリート	高さ (被覆範囲)	鋼管杭：全数 矢板：1打設3箇所以上 完了後、上端・下端高さ (被覆範囲の確認)		測定表を作成し提出。 測定密度における矢板の1打設と は、コンクリートモルタルの配合 1回当たりの打設を示す。	
	防食塗装		鋼管杭：全数 矢板：50m ² に1箇所以上 完了後、上端・下端高さ (被覆範囲の確認)	測定表を作成し提出。						

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
4	3	5	2		床掘	測深	法部（外測） 2,000	設計図書の測点ごとに測定する。	法部（斜面に直角に測定） 法部（斜面に直角に測定） 	平面図に実測を記入し提出。 断面図は監督員が指示したとき作成し提出。 『音響測深機、レッド又はレベル等により測定』		
							法部（内測） 300					
							底面 ± 300					
4	3	5	6		置換（置換材均し）	延長	+規定しない - 0	施工完了後。		管理図に延長を記入し提出。		
						天端高	±500				設計図書の測点ごとに測定する。	
						天端幅	+規定しない - 0					
						法面						
4	3	6	4		基礎 （基礎捨石工）	本均し	延長 天端幅	+ 規定しない - 100	設計図書の測点ごとに測定する。	『音響測深機、レッド又はレベル等により測定』		出来形図を作成し提出。
						荒均し	天端高	± 50				
							天端高	± 500 岸壁前面 + 0 - 200				
							法 面	法部 （法面に直角） ± 500				
							天端幅	+ 規定しない - 100				
			延長	+ 規定しない - 100								
			6		基礎 （基礎ブロック）	異形ブロック 据付面の高さ	異形ブロック 据付面の高さ （層積）±300 据付面の高さ （乱積）±500		天端幅	+ 規定しない - 100	設計図書に示す測点ごとに測定する。 	注1) 係留施設、護岸、土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。 出来形図を作成し提出。 出来形図を作成し提出。
※詳細は監督員との協議による。												

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
4	3	7	2		ケーソン製作工	壁厚	± 10	各層完成時 各壁 1箇所		管理表を作成し提出。	
						高さ	+ 30 - 10	完成時、四隅			
						幅 長さ	+ 30 - 10	各層完成時に中央部及び 底版と天端は両端			
						底版厚さ	+ 30 - 10	底版完成時 各室中央部 1箇所			
						フーチング高さ	+ 30 - 10	底版完成時、四隅			
						対角線	± 50	底版完成時及び完成時			
						バラスト	砕石・砂 ± 100 コンクリート ± 50	各室中央部 1箇所		管理表を作成し提出。 投入量管理	
4	3	7	3		ケーソン据付 (岸壁)	目 地 間 隔	(2000 t 未満)	100 以下	据付完了後、天端 2箇所		管理表を作成し提出
							(2000 t 以上)	200 以下	据付完了後、天端 2箇所		
						法 線 の 出 入	(2000 t 未満)	± 100	据付完了後、両端 2箇所		
							(2000 t 以上)	± 150	据付完了後、両端 2箇所		
						天端高		据付完了後、中詰完了後、四隅			
						延長		据付完了後、法線上			
					ケーソン据付 (防波堤)	目 地 間 隔	(2000 t 未満)	200 以下	据付完了後、天端 2箇所		
							(2000 t 以上)	300 以下	据付完了後、天端 2箇所		
						法 線 の 出 入	(2000 t 未満)	± 200	据付完了後、両端 2箇所		
							(2000 t 以上)	± 300	据付完了後、両端 2箇所		
						天端高		据付完了後、中詰完了後、四隅			
						延長		据付完了後、法線上			

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4	3	8	2		ブロック製作 (L型、セルラー、方塊、直立消波)	幅	+ 20 - 10	幅、長さは両端部の上面、下面 高さは、四隅、壁厚は各壁2箇所 L型、セルラーは全数。 直立消波、方塊は10個に1個以上 (但し、最低3個、3個未満は全数)		管理表を作成し提出
						高さ	+ 20 - 10			管理表を作成し提出。
						長さ	+ 20 - 10			管理表を作成し提出。 セルラー、方塊
						壁厚	± 10			
						対角線	± 30			
4	3	8	3		ブロック据付 (L型、セルラー、方塊、直立消波)	法線に対する出入り	± 50	据付後ブロック1個につき2箇所 (最下段、最上段)		管理表を作成し提出。
						隣接ブロックとの間隔	L型、セルラー 50以下 直消、方塊 30以下			
						天端高		据付完了後、ブロック1個につき 2箇所(最上段のみ)		
						延長		据付完了後、法線上(最上段のみ)		
4	3	12	2		コンクリート矢板	矢板壁延長	+ 矢板1枚幅 - 0	施工中適宜、打込完了時		管理表を作成し提出。
						矢板法線に対する出入	±100	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点		
						矢板法線に対する傾斜	2/100以下	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点		
						矢板法線方向の傾斜 (両端部)	上下の差が矢板 1枚幅未満 2/100以下	施工中適宜 打込完了時(両端部)		
						矢板天端高	± 50	打込完了時、20枚に1枚		
						矢板継手部の離脱		全数		
4	3	15	2		被覆及び根固め (被覆石工)	延長	+ 規定しない - 200	設計図書の測点ごとに測定する。		出来形図を作成し提出
						天端均し	± 500 岸壁前面 + 0 - 200			
						天端幅	+ 規定しない - 200			
						法部均し	(斜面に直角) ± 500			
		4				被覆及び根固め (被覆ブロック工)	異形ブロック 据付面の高さ(層積)	(斜面に直角) ± 300		
							異形ブロック 据付面の高さ(乱積)	± 500		
							天端幅	+ 規定しない - 200		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4	3	16	2 3		防波堤上部工	(天端幅10m以下)				測定表を作成し提出
						延長	+規定しない - 0	法線上		
						天端幅	± 30	1 スパン 3 箇所		
						法線に対する出入	± 50	1 スパン 2 箇所		
						天端高 厚さ	± 20	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上		
						(天端幅10mを超える)				
						延長	+規定しない - 0	法線上		
						天端幅	+ 50 - 30	1 スパン 3 箇所		
						法線に対する出入	± 50	1 スパン 2 箇所		
						天端高 厚さ	+ 50 - 20	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上		
4	3	16	2		岸壁	延長	+規定しない - 0	法線上	測定表を作成し提出	
						法線に対する出入	± 30	1 スパン 2 箇所		
						天端高 厚さ 天端幅	± 20	1 スパン 3 箇所		
						防舷材ベッド		スパン毎		
					栈橋上部コンクリート	岸壁に同じ	岸壁に同じ	岸壁に同じ		測定表を作成し提出
					天端高又は厚さの管理項目の選定は(特)による。					
					梁(高さ、幅)床版厚は型枠検査による					
4	3	17	2		係船柱 (直柱、曲柱)	天端高	± 20	据付完了時、中心部、全数		管理表を作成し提出
						岸壁前面に対する出入		据付完了時、全数		
						中心間隔		据付完了時、各スパン毎中心部、各基		
						基礎コンクリート幅 (直柱)		完了時、全数、天端両端		
						基礎コンクリート長さ (直柱)		完了時、全数、前後面		
						基礎コンクリート高さ (直柱)		完了時、全数、中心点		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4	3	17	3		防眩材	取付高さ		取付完了時、中心部、全数		管理表を作成し提出
						中心間隔		取付完了時、中心部、全数		
4	3	17	4		車止め	天端高		取付完了時、中心部、全数		管理表を作成し提出
						岸壁前面に対する出入	± 30	取付完了後中心部を1点		観察結果を報告
						取付間隔		上部工1スパンに2箇所		確認結果を報告
						塗装				
						警戒色 (シマ模様)		完了時適宜		
4	3	18	3	1	異形ブロック製作	形状寸法	+ 20 - 10	異形ブロック及び根固ブロック準用する 出来形・シュミット管理	ブロックの天端、肩、法 コンクリート打設毎の10%を測定する。	形状寸法、 ブロック諸元による。
4	3	18	3	2	異形ブロック据付	延長	+ 規定しない - 100	設計図書の測点毎に測定する。	この基準によりがたい場合は特記仕様書による。	2層以下の災害復旧、 維持工事等は適用除外。
						天端高(層積)	+ 規定しない - 300			
						天端高(乱積)	+ 規定しない - ブロック高の1/3			
4	3	19	2		裏込め均し	天端高	± 200	設計図書の測点毎に測定する。		出来形図を作成し提出。
						天端幅	+ 規定しない - 100			マットを使用する場合を含む。 出来形図を作成し提出。
						法面 (斜面に直角に測定)	± 200			出来形図を作成し提出。
						延長	+ 規定しない - 100			

(特)：図面及び特記仕様書

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4	3	19	4		埋立 裏埋	区域		設計図書の測点毎に測定する。	この基準によりがたい場合、特記仕様書による。	
						地盤高	- 0			